

養殖カキへのシロボヤの付着状況と 対策について（注意喚起情報）

令和3年7月9日
佐賀県有明水産振興センター

■ 現状



- ・ 養殖カキへのシロボヤの付着数が増加しており、シロボヤは多いところで原盤1枚あたり数個程度付着しています。
(2021年7月7日 調査時点)
- ・ 過去2年間と同様、7月下旬頃にはシロボヤが大増殖し、養殖カキの斃死を誘発するおそれがあります。

■ 対策

- ・ シロボヤは「淡水」と「干出（乾燥）」に弱いという報告があります。(2001年, 石川県)

● 淡水に3時間以上浸漬すると、1週間後には100%のシロボヤが斃死します。

干出を24時間あたえると、1週間後には60～70%のシロボヤが斃死します。

20時間以内の淡水浸漬と24時間以内の干出では、牡蠣の斃死や、原盤からの牡蠣の脱落はほとんどありません。

➡ これらの対策を早期に実施することで、被害を軽減することが可能です。

現場での対策法

- ・ 降雨の日に、養殖連を筏上に揚げ、降雨（淡水）にシロボヤを5時間以上曝した後、養殖連を海中へ戻します。
(20時間以上淡水に曝すと牡蠣が脱落するため注意して下さい)



R1 淡水散布のために
筏上に揚げた養殖連

- ・ シロボヤの斃死効果は数日後に現れます。

➡ 今週末の降雨次第で実施可能です。

【注意事項】

日中の気温が30℃を超える日は、牡蠣への悪影響が懸念されるため、気温の下がる夕方に養殖連を揚げ、翌日早朝に海中へ戻す等工夫してください。

○連絡先
佐賀県有明水産振興センター
TEL：0952-66-2000
担当：川崎・野口